

# キタイ設計の2030年に向けたSDGsの具体的な取り組みと成果

The Specific Efforts And Achievement of Sustainable Development Goals for 2030 by KITAI Sekkei Co.,Ltd.

小川 愛哉\*1、梶 雅弘\*2、村里 勲\*3、平田 純也\*4、平櫛 武\*5

## 1. はじめに

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) とは、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の指標である<sup>1)</sup>。2015年の国連サミットにおいて、全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で中核として掲げられ、2030年を達成期限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている<sup>1)</sup>。世界全体の経済、社会及び環境の3側面を不可分のものとして調和させ、誰一人取り残すことなく、貧困・格差の撲滅等、持続可能な成果を実現するための統合的取り組みであり、先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標である<sup>2)</sup>。SDGsの達成には、国のみならず、企業や地方自治体、教育機関、NGO/NPO、個人等の多様なステークホルダーの主体的な取り組み・行動が求められている。

建築・建設業界においてもSDGsは密接に関係している。例えば、ゴール11「包括的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市および人間居住を実現する(簡易表記: 住み続けられるまちづくりを)」においては、住環境の整備やまちづくり、インフラ整備などの事業がSDGsと深く関係している。それ以外にも、ゴール10(人や国の不平等をなくそう)や、企業自体の働き方改革の点からゴール8(働きがいも経済成長も)などとも深く関係する。つまり、これまでの企業活動や企業理念が、SDGsに合致する点が多いため、企業はSDGsのど

のゴール・ターゲット・指標と合致しているのか整理することが重要である。

弊社、キタイ設計(株)は、土地改良事業を中心に、農業農村地域(以下、里山地域)の発展に貢献するという社会的使命を果たしてきた建設コンサルタントである。社会インフラの整備やまちづくり、防災、自然環境保全、循環型社会づくり、水辺や公園の計画設計、都市計画、建築など、広範囲にわたり事業を展開している。

本稿では、2018年より弊社が進めてきた、2030年に向けたSDGsの具体的な取り組みとその成果を紹介する。



図-1 SDGsと建築・建設業界との関わり

\*1 OGAWA Manaya :キタイ設計(株) 事業開発本部事業開発グループ 技術員  
 \*2 KAJI Masahiro :キタイ設計(株) 代表取締役  
 \*3 MURASATO Isao :キタイ設計(株) 事業開発本部 本部長  
 \*4 HIRATA Junya :キタイ設計(株) 事業開発本部 副本部長  
 \*5 HIRAKUSHI Takeshi :キタイ設計(株) 事業開発本部事業開発グループ グループリーダー 技師長

## 2. 2030年に向けたSDGsへのビジョン策定

弊社は、企業理念に掲げる「社員一人ひとりが、社会によって生かされていることに感謝し、社会に貢献していることの自覚と自立心を持って行動し、品位ある会社としての確かな方向性を定める」の精神のもと、SDGsの達成に貢献するとともに、地域の社会的課題解決と経済成長の両立を目指し、「キタイSDGs宣言」及び国連で定められたターゲット、指標に基づいたより具体的な「KITAI SDGs Plan」(表-1)を策定した。

### 2.1 キタイSDGs宣言

2018年9月6日に、キタイSDGs宣言を策定した。キタイSDGs宣言では、地域の社会的課題解決と経済成長の両立を目指し、次頁の表-2のとおり宣言し、公表した。

表-1 策定の経緯

期間	主な取組みの内容
2018年9月	キタイSDGs宣言 策定
2019年1月～	担当者勉強会参加 滋賀銀行主催“しがハブセミナー”
2019年7月	SDGsに関する社内勉強会
2019年10月～	社内行脚・SDGs研修 各支社・部署へのプラン内容等の説明
2020年4月	社内ヒアリング調査、プラン検討
2020年6月	役員会にてプランの方針決定
2020年7月	KITAI SDGs Plan 策定

キタイSDGs宣言	社内の方針	具体的な取組	SDGs	ターゲット	指標
飢餓をなくし持続可能な農業を推進する取組		・農業農村整備事業		2.4 生産性が向上し持続可能な農業実践	生産的で持続可能な農業地域の割合
住み続けられるまちづくりを推進する取組	受注最優先の徹底・年間目標の達成	・防災、減災、国土強靭化 ・社会資本の維持更新		9.1 持続可能で強靭なインフラ開発	地方の人口、旅客貨物量
				11.7 緑地や公共スペースの提供	緑地や公共スペースの割合
				13.1 気候関連、自然災害への強靭性	死者数、行方不明者数、負傷者数
ディーセントワークおよび健康経営を推進する取組	働き方改革の推進  体調管理の徹底 (日常社会への影響認識)	・ISO・SKYSEA ・新卒中途採用プロジェクト ・だんどり君・36協定の順守 ・ウィークリースタンス  ・社員の健康保持「健康経営」 ・感染症対策 ・充実した福利厚生 ・交通事故撲滅運動 ・BCP		8.5 働き甲斐のある仕事と同一労働同一賃金	平均時給
				3.4 若年死亡率の低下	心血管疾患の死亡率
				3.a たばこの規制	喫煙率
				3.6 交通事故の死傷者半減	道路交通事故による死亡率
生態系を守り、豊かな地球環境を保全する取組	環境との調和に配慮した設計、多自然ビオトープ	・環境調査計画 ・環境配慮設計 ・環境配慮工事		15.5 絶滅危惧種の保護、対策	レッドリスト指数
専門的な技術力を高め、保つための取組	安全管理・リスク管理・発注者評価の向上	・業務管理 ・品質管理(ISO) ・資格取得		4.3 技術教育への平等なアクセス	技術教育への参加割合
先がけて新プロジェクトに果敢にチャレンジする取組	新規事業戦略	・ベトナム国際技術支援プロジェクト		10.1 各国の所得成長率	各国の1人あたりの所得成長率

図-2 弊社の2020年の取組み

表-2 キタイSDGs宣言

1	貧困、飢餓をなくし持続可能な農業を推進する取組み 農業農村工学分野における知見と経験を活かし、国内外における農業分野での課題解決を目指します。
2	ディーセントワーク(働きがいのある人間らしいごと)および女性活躍支援を推進する取組み ワークライフバランスの推進等を通じて、健康経営を推進するとともに働きがいのある職場づくりを目指します。
3	住み続けられるまちづくりを推進する取組み インフラ整備やアセットマネジメントに関する知見と経験を活かしつつ、国土強靱化に加えて農山村地域の活性化に貢献します。
4	生態系を守り、豊かな地域環境を保全する取組み 公共事業における環境提案を通じて、人と自然が共存できる地域環境の実現を目指します。

## 2.2 KITAI SDGs Plan

キタイSDGs宣言の下、2020年7月に「KITAI SDGs Plan」を策定した。プランの中では、弊社の方針や具体的な取組みと、国連で定められているSDGsのゴール・ターゲット・指標との関係性を整理し(図-2)、2030年の弊社の目指す基本的な方向と具体的な内容まで検討し、弊社の2030年の未来(図-3)として位置づけている。

図-2の弊社の2020年の取組みの中では、これまでの企業活動がSDGsのどのゴール、ターゲット、指標に関連するかを整理している。キタイSDGs宣言の各項目に基づき、企業活動とSDGsのゴールだけでなく、ターゲット・指標についてまで詳細に整理している。また、計画・設計業務だけでなく、健康経営や働き方改革などもSDGsに関連していることが分かり、社員一人一人がSDGsの達成を意識する内容となっている。

基本的な方向	具体的な内容	SDGs	ターゲット	指標
AI、RPA技術を標準活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動設計領域の拡大</li> <li>・BIM/CIM(3D)標準</li> <li>・i-Construction、VR技術、ホログラムへの活用</li> </ul>		8.2 高いレベルの経済生産性の達成	労働者1人あたりの実質GDP(国内総生産)の年間成長率
ICT、IoT技術を標準活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査作業の無人ロボット化</li> <li>・テレワーク&amp;フレックス</li> <li>・フルオンライン会議</li> </ul>		3.4 若年死亡率の低下	心血管疾患の死亡率
エネルギー変革に伴う新たな移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気無人自動車利用</li> <li>・コネクテッドカー利用</li> <li>・郵送技術の進展</li> </ul>		13.2 気候変動対策(国別)	温室効果ガスの低排出型の発展
専門技術者養成システムの標準運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒_中途採用社員に専門技術教育支援</li> <li>・プリセプターシップ制</li> <li>・女性管理職の登用</li> <li>※性別や国籍を問わない</li> </ul>		4.3 技術教育への平等なアクセス	技術教育への参加割合
			5.5 女性の参画、リーダーシップの機会確保	管理職の女性割合
世界に誇れる建設コンサルタンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内、海外技術支援業務の継続</li> <li>・自主事業に伴うランニングコスト提案</li> </ul>		17.9 開発途上国での能力構築に対する国際支援強化	開発途上国にコミットした資金および技術援助額
生涯現役支援システムの運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シニアヒアリング調査</li> <li>・資金運用と新事業支援</li> <li>・社内資産活用</li> <li>・OB会連携</li> <li>・社内外オンライン交流</li> </ul>		1.3 脆弱層に対する十分な保護の達成	社会保障制度によって保護されている人口の割合
「里山支援」システムの運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業技術活用</li> <li>・関係人口案内、マルシェ、社員保育所</li> <li>・クラウドファンディング</li> <li>・都市農村交流、地域特産品づくり、6次産業化</li> </ul>		11.a 都市農村の良好なつながりの支援	地域開発計画を実行している都市の割合
			12.b 持続可能な観光業の開発	持続可能な観光戦略、行動計画

図-3 弊社の2030年の未来

図-3の弊社の2030年の未来においては、2030年に向けて弊社が新たに取り組むべきことが整理されている。AI・RPA技術やICT・IoT技術のほかに、技術者育成や海外支援、里山支援のシステム運営など様々な方向性・内容に対して具体的な指標設定を行っている。

策定にあたって、以下の4つのポイントに留意した。

#### ①経済・社会・環境課題の解決

SDGsは、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標<sup>3)</sup>として掲げられており、それぞれの課題解決が求められている。“SDGsは環境課題の解決である”といったイメージが浸透しているように思われるが、経済課題の解決こそが重要であると考え、留意した。持続可能な企業活動を生み出すためには、雇用の継続が必須であり、経営（営業活動や事務・総務）もSDGsに関係しているということである。社会課題や環境課題の解決は“SDGsの種”であるという視点が重要である（図-4）。

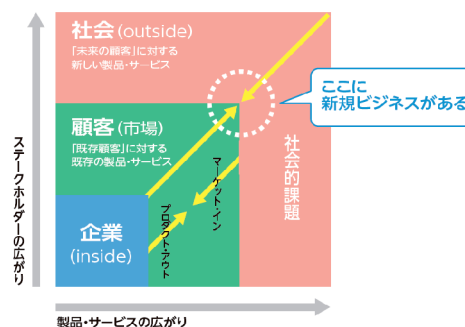


#### ②アウトサイド・インのビジネスアプローチ

SDGsの企業行動指針をまとめたビジネス指南書であるSDG Compass<sup>4)</sup>において、従来の内部中心的なアプローチ「インサイド・アウト・アプローチ」では世界的な課題に対する現在の事業達成度と求められる達成度にはギャップがあり、世界的な視点から何が必要かについて外部から検討し、それに基づいて目標を設定する「アウトサイド・イン・アプローチ」が企業の活動に必要なだとされている。

また、「SHIGA 戦略的 CSR 経営モデル 2030」<sup>5)</sup>（滋賀経済同友会）においては、アウトサイド・インの発想により、「社会課題×自社の経営資源（強み）×新たなイノベーション＝戦略的取組事業（戦略的 CSR 経営モデル）」になると整理されている（図-5）。

弊社においても、社会課題と企業の強みの突合せに新たなビジネスモデルがあると考え、アウトサイド・イン・アプローチを採用しプラン策定を進めた。

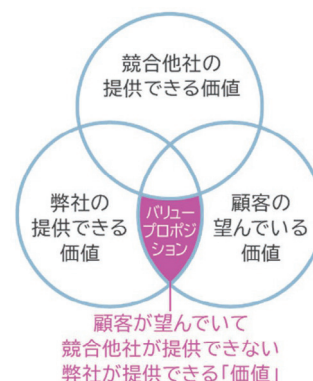


#### ③社員の意識改革

表-1にもあるように、プランを策定し、SDGsに取り組むにあたり、全社・全部署を目指して担当者が説明行脚し、社員に周知を行った。また、役員・管理職以上にはヒアリングを実施し、丁寧に意義を説明した。説明の際には、現在の企業活動を変えずに既存の企業活動をSDGsに置き換えるということをポイントとして伝え、社員の意識改革に努めた。

#### ④バリュー・プロポジションを重視

弊社では、顧客が望んでいて、競合他社が提供できない、自社が提供できる価値を重視し、ロジックモデルによりSDGsの整理を行った。このバリュー・プロポジションは会社の経営資源プラン策定にあたって整理する判断基準となった（図-6）。



以上の「KITAI SDGs宣言」と「KITAI SDGs Plan」に基づき、これまでの企業活動を大きく変えることなく、SDGsの達成に向けて全社・全部署で取組みを進めている。

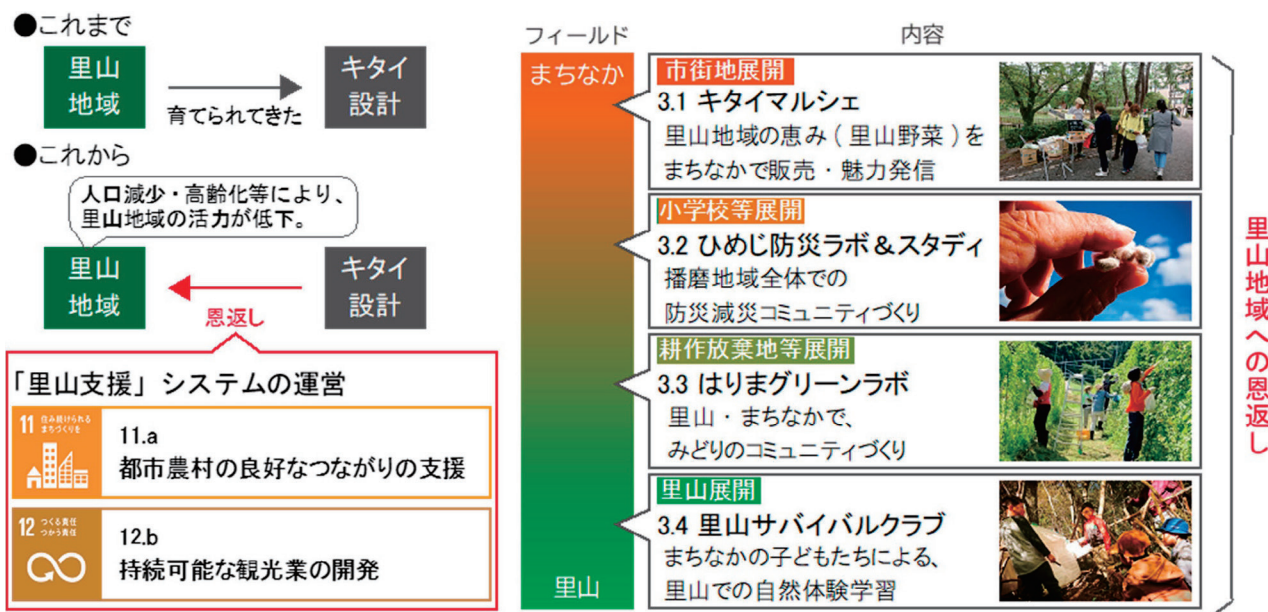


図-7 弊社が事務局となって取り組むSDGsの自主事業

### 3. SDGs活動の実例

弊社のSDGsの取組みのうち、「里山支援」システムの運営として行っている4つの自主事業を取り上げ、紹介する。この4つの自主事業は、これまで里山地域の発展に貢献するという社会的使命を果たすことで、地域に認められ、地域に育てられてきた弊社だからこそ取り組む意義のある、人口減少時代の里山地域への恩返しのSDGs活動である（図-7）。

#### 3.1 キタイマルシェ

キタイマルシェは、里山地域の食材をまちなかで販売することで、里山地域の魅力を知ってもらうことを目的として活動しており、弊社が事務局を務めている。キタイマルシェでは、主に、兵庫県の播磨地域での里山野菜を中心に販売を行っている。2018年から始まり、これまでに神戸と大阪で計6回実施し、盛況であった。

**キタイマルシェの特徴**

里山環境野菜が中心	里山野菜の安定供給	新鮮で安心な野菜を直送
-----------	-----------	-------------

**これまでの販売実績**

 黒大豆枝豆	 姫路レンコン	 岩津ネギ
 ひまわりドレッシング	 下岡ニンニク	 八代オクラ

図-8 キタイマルシェ

マルシェは「里山支援」システムの運営の具体的な内容として掲げられており、SDGsのターゲットでもある都市農村の良好なつながりや持続可能な観光業を目指している。

#### 3.2 ひめじ防災ラボ&スタディ

ひめじ防災ラボ&スタディは、防災の「備え」にテーマを絞り、アクティブラーニングで学び、現地で体験する勉強会を開き、ラボ・スタディ・コミュニティの3つの視点から、播磨地域全体の防災減災コミュニティを育む活動を姫路市内中心で行っており、弊社が事務局を務めている。

ラボでは、里山地域やまちなかでの防災まち歩き点検や、空き家を活用したサバイバル防災ゲーム、姫路市内の小学生とともに姫路木綿を栽培・収穫し、防災用品づくりや避難訓練プログラムを行い、いのちについて学ぶコットンチルドレンラボ等を行っている。スタディでは、自然災害について学ぶ勉強会や講師・教材の派遣・提供等を実施している。コミュニティでは、災害時に顔の見える関係づくりや里山とまちなかを結ぶ防災協定の締結の仲介等を実施している（図-9）。2018年から活動を行い、約104名の地域の方々が会員となり、NPO法人、民間企業・団体、行政団体、小学校等の教育機関と提携しながら、里山地域とまちなかを巻き込む活動へと成長している。また、参加者からの参加費により運営している。

防災をテーマとした都市農村交流を里山地域の空き家やまちなかの小学校などで行い、SDGsのターゲットでもある都市農村の良好なつながりを目指している。

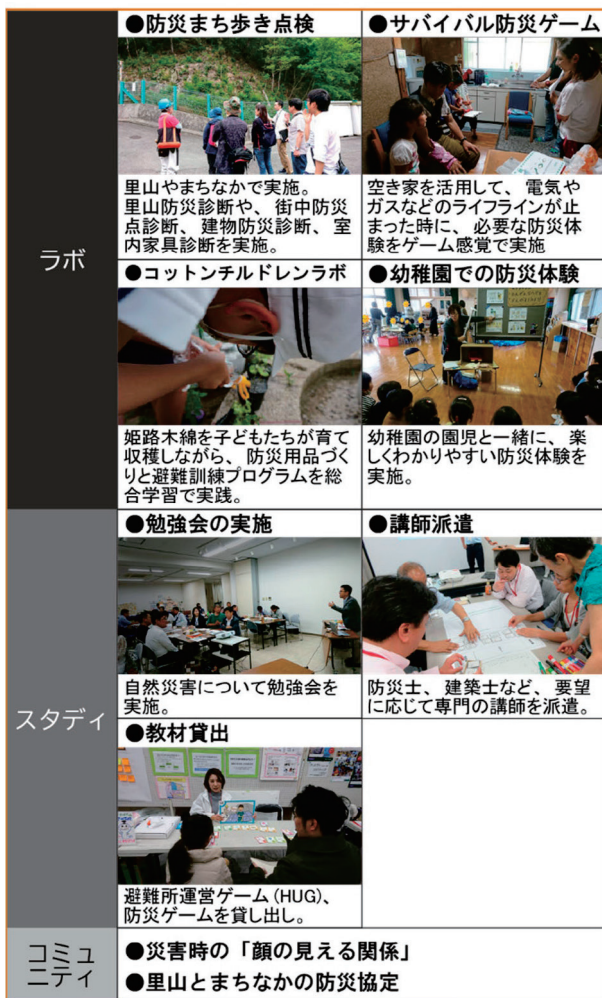


図-9 ひめじ防災ラボ&amp;スタディ

### 3.3 はりまグリーンラボ

はりまグリーンラボは、様々なみどりを広める活動を社会実験として行うことで、みどりの仲間をつくり、地域に愛着をもつ人口を増やし、地域を元気にすることを目的に活動しており、弊社が事務局を務めている。

はりまグリーンラボでは、はりまホッププロジェクトを主な活動としている。はりまホッププロジェクトは、ビールの主原料であるホップを、耕作放棄地の増える里山地域や屋上緑化・壁面緑化等の緑化活動が望まれるまちなかで市民の方々が育て、里山地域とまちなかとの交流促進や地域課題の解決に貢献することを目的としている。2019年から始まり、これまでに550苗のホップが播磨地域の各地に広がり、約6,000本のビールをクラウドファンディングで集まった約200万円の寄付金で参加者とともに製作し、補助金等に頼らない自立型のプロジェクトとして運営している。また、2022年度においても、新規での予約があり、さらに約200苗が播磨地

域に広がる予定である(図-10)。

補助金に頼らない自立型の運営を目指したクラウドファンディングや里山地域でのまちなかの関係人口を活用した都市農村交流等を積極的に行い、SDGsのターゲットでもある都市農村の良好なつながりや持続可能な観光業の開発を目指している。



図-10 はりまグリーンラボ

### 3.4 里山サバイバルクラブ

里山サバイバルクラブ(図-11)は、まちなかの子どもたちが里山での自然体験を通じて感性を養うことを目的に活動し、弊社が事務局を務めている。里山での体験学習や収穫・販売体験、書評会の運営等を行っている。活動を進める上で、アクティブラーニングで子どもの気づきや学びを重視し、主体的かつ対話的な深い学びを行うことを大事にしている。これまでに延べ2,200名の親子・地域住民が様々な活動に参加し、外部評価もなされ

ている（書評会においてBibliobattle of the Year 2020を受賞）。また、この活動は参加費により運営している。

子どもたちの体験学習を主とした都市農村交流を積極的に行い、SDGsのターゲットでもある都市農村の良好なつながりや持続可能な観光業を目指している。



図-11 里山サバイバルクラブにおける活動の一例

#### 4. SDGs活動の実施による成果

弊社は、「キタイSDGs宣言」と「KITAI SDGs Plan」を策定し、従来の企業活動をSDGsに置き換え、実施してきた。そのSDGs活動（自主事業だけではなく、設計業務や総務・営業業務も含む）を実践し、継続的なモニ

タリングを実施することで、その結果をSDGs活動に反映させてきた。

SDGs活動とそのモニタリングを継続的に行うことで、社会的評価（ESG投資や企業プロモーション）を得て、活動の活発化につながっていた。従来の企業活動では得られなかった多様な視点での評価が得られた。また、「SDGsのプラスサイクル」を生み、社会的評価を得ることで、企業価値が向上し、新規ビジネス受注や雇用・新たな人材確保となり、持続可能な企業活動の実現となっていた（図-12）。持続可能な企業活動の実現は、2030年目標のSDGsへの達成貢献に不可欠である。

#### 4.1 ESG投資の契約

SDGsに関する宣言やプラン、その活動の展開により、弊社は滋賀銀行とのESG投資の契約を行うことが可能となった。滋賀銀行とのESG投資契約である「しがぎん」サステナビリティ・リンク・ローン契約は、借手による野心的なサステナビリティ・パフォーマンス目標の達成状況と金利の引下げ等の融資条件を連動させた融資手法で、ローンマーケットアソシエーション（LMA）等が策定したサステナビリティ・リンク・ローン原則に適合したもの<sup>6)</sup>である。野心的な挑戦目標の達成に向けて取り組む姿勢が評価され、ESG投資契約により、企業価値が大きく向上し、SDGs活動の活発化につながっている。

#### 4.2 企業プロモーション

企業価値の向上に伴い、取材依頼（メディア取材・全国発表・論文掲載等）が増え、企業プロモーションにもつながっている。その一例を図-13に取り上げる。

特に、SDGsへの取組みは、社会的必要性からも関心が高く、多方面から取材依頼があり、その結果更なる企業価値の向上・SDGs活動の活発化となっている。

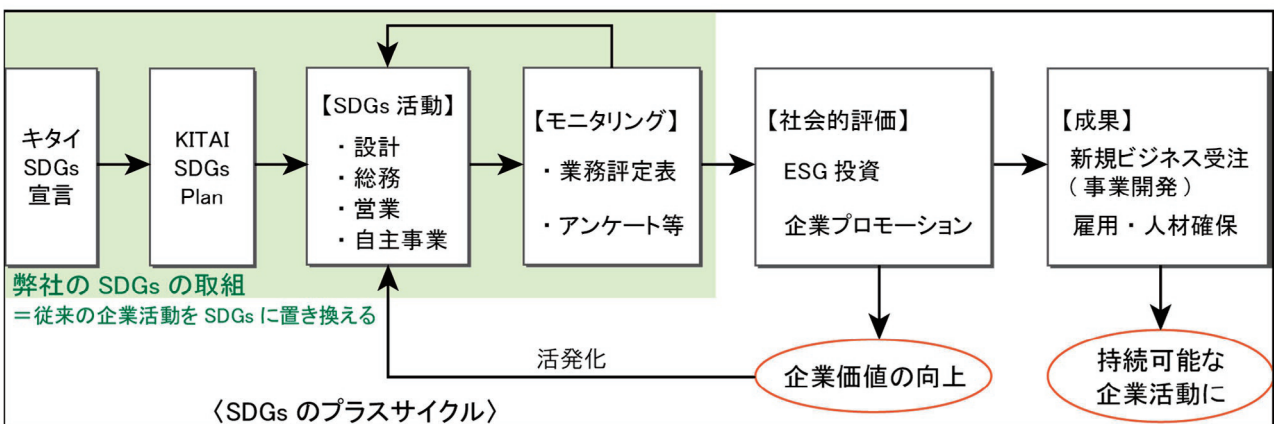


図-12 弊社が取り組むSDGsのプラスサイクルフロー



図-13 弊社のSDGs関連取材の一例

### 4.3 新規ビジネス受注（事業開発）

SDGs活動の展開及び企業価値の向上に伴い、新規業務受注につながっている。その一例を図-14に示す。

「KITAI SDGs Plan」の中でも掲げている「里山支援」システムの運営のための関係人口案内に合致する形で、新規業務「ひょうご関係人口案内所運営支援業務」の受注につながっている。このように、SDGs活動や宣言・プランに関連した業務が生まれ、新規ビジネス受注につながっている事例もある。



図-14 新規事業開発の一例

### 4.4 雇用・人材確保

SDGs活動は、企業が取り組むべき経済課題でもある「雇用の確保」に対しても大きく貢献している。

SDGs活動の継続的な実施により、企業価値の向上につながることで、採用活動の際の会社説明会の資料にも用いられるなど、優秀な人材の確保や継続的な雇用・人材確保となっている。

### 5. おわりに

弊社におけるSDGsの取組みについて、宣言やプラン策定、自主事業の取組み、その成果について紹介した。重視したことは、既存の企業活動がSDGsにどう合致するのかを整理し、全社となって取り組むための宣言・プ

ランを策定したことである。プランを基に、SDGs活動を行うことで、企業価値が向上し、持続可能な企業活動につながっていた。

SDG Compass<sup>4)</sup>においても、企業がSDGsに取り組むメリットとして、「企業の持続可能性に関わる価値の向上」が挙げられている。社会的に意義があるSDGsへの取組みは、社会・経済・環境課題へのアプローチのみならず、自社の企業の存続・持続可能性にも大きく関わっている。主体的にSDGsに取り組むために、まずはこれまでの企業活動とSDGsとの関係性を整理し、置き換えることが重要であると考えている。2030年までにSDGsの達成に対して、建築・建設業界が貢献できるよう、弊社も取組みを継続していく所存である。

### 【参考文献】

- 1) 外務省：持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組、[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs\\_pamphlet.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf)
- 2) 坂本りっか：SDGsをめぐる動向と関西SDGs貢献チャレンジ、日本ゴム協会誌、93巻5号、pp.147-151、2020。
- 3) 農林水産省：SDGsとは、[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/about\\_sdgs.html](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/sdgs/about_sdgs.html)
- 4) GRI, United Nations Global Compact, WBCSD (翻訳：GCNJ, IGES)：SDG Compass, SDGsの企業行動指針 -SDGsを企業はどう活用するか-、[https://sdgcompass.org/wp-content/uploads/2016/04/SDG\\_Compass\\_Japanese.pdf](https://sdgcompass.org/wp-content/uploads/2016/04/SDG_Compass_Japanese.pdf)
- 5) 滋賀経済同友会、SHIGA戦略的CSR経営モデル2030、<https://www.s-douyu.jp/csr2030>
- 6) 滋賀銀行、ESGファイナンスの取り組み、[https://www.shigagin.com/pdf/company\\_ESG\\_action.pdf](https://www.shigagin.com/pdf/company_ESG_action.pdf)
- 7) キタイ設計（株）ホームページ、<https://www.kitai.jp/>

### 【執筆者】

\*1 小川 愛哉  
(OGAWA Manaya)\*2 梶 雅弘  
(KAJI Masahiro)\*3 村里 勲  
(MURASATO Isao)\*4 平田 純也  
(HIRATA Junya)\*5 平櫛 武  
(HIRAKUSHI Takeshi)